

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 114号

2014/10/13 発行
株式会社 立花商店
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：週を通して上昇＝供給不足懸念が一転、供給過剰観測へ

① 最高 12月 LDN 市場£2,053 /12月 NY 市場\$3,157 (10/10) 先週比 **LDN-£22/NY-\$154**

② 最低：12月 LDN 市場£1,978 /12月 NY 市場\$3,038 (10/8) 先週比 **LDN+£9/NY-\$18**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£75 (傾向↑) / NY 市場\$119 (傾向↑)

週内建玉推移：LDN市場 252,452枚(10/3終了時)⇒244,783枚 (10/9終了時) **-7,669枚**

NY市場 204,789枚(10/3終了時) ⇒201,742枚 (10/9終了時) **-3,047枚**

【10月6日(月)】ニューヨークは5日ぶり反発＝ロンドンも続伸

ニューヨーク市場は5営業日ぶりに反発。12月きりは23ドル高の3079ドルで終了した。2015年3月きりは22ドル高の3058ドル。ロンドン市場の3月きりは続伸。3月きりは8ポンド高の1980ポンドで引けた。

【10月7日(火)】ニューヨークは反落＝ロンドンも軟調

ニューヨーク市場のココア先物は反落。12月きりは、28ドル(0.9%)安の3051ドルで引けた。

市場の関心は、今後発表される第3四半期の圧碎高統計に移行している。ロンドン市場の12月きりは、21ポンド(1.0%)安の1986ポンドで引けた。

【10月8日(水)】ニューヨーク、ロンドンとも続落

ニューヨーク市場は続落。12月きりは13ドル(0.4%)安の**3038ドル**で引けた。一時5月後半以来の安値となる3030ドルを付けた。トレーダーらによると、需要低迷と豊作見通しが圧迫要因だった。ロンドン市場も続落。3月きりは10ポンド(0.5%)安の1953ポンドと、安値の1952ポンド近辺で終了。12月きりは8ポンド安の**1978ポンド**で引けた。

【10月9日(木)】ニューヨーク反発＝ロンドン堅調

ニューヨーク市場は反発。12月きりは19ドル（0.6%）高の3057ドルで引けた。ロンドン市場は堅調に推移し、12月きりは5ポンド（0.25%）高の1983ポンドで終了した。

【10月10日(金)】両市場とも3%超急伸＝エボラ懸念で

エボラ出血熱が西アフリカ産の供給に及ぼす影響への懸念から、ニューヨーク市場では投資家かがショートカバーに動き、3%超と、約9カ月ぶりの上げ幅を記録した。12月きりの終値は100ドル（3.3%）高の3157ドル。

ある市場関係者はエボラ出血熱に関して「教科書通りの拡散の仕方に、誰もがナーバスになっている」と語った。

欧州やブラジルで感染の疑いが出たことから、コートジボワールやガーナなど主要産地への拡散は防げるとの自信は揺らいでいる。

主要産地に飛び火しても、生産や出荷に影響が出るかどうかは不明だが、こうした不透明さそのものが、相場を押し上げている。

8日に3030ドルと、5月以来の安値をつけたことも、ショートカバーを活発化させ、相場を押し上げた。ロンドン市場の12月きりは70ポンド（3.5%）高の2053ポンドで引けた。

2、ナイジェリア：良天候に恵まれ、第二期メインクropp開始(10/8)

ナイジェリア最大の 카카오豆産地では、2014/15期のメインクroppの第2回目が始まった。収穫後の 카카오豆を乾燥させるために必要な日光照射も十分に確保できるとされている。

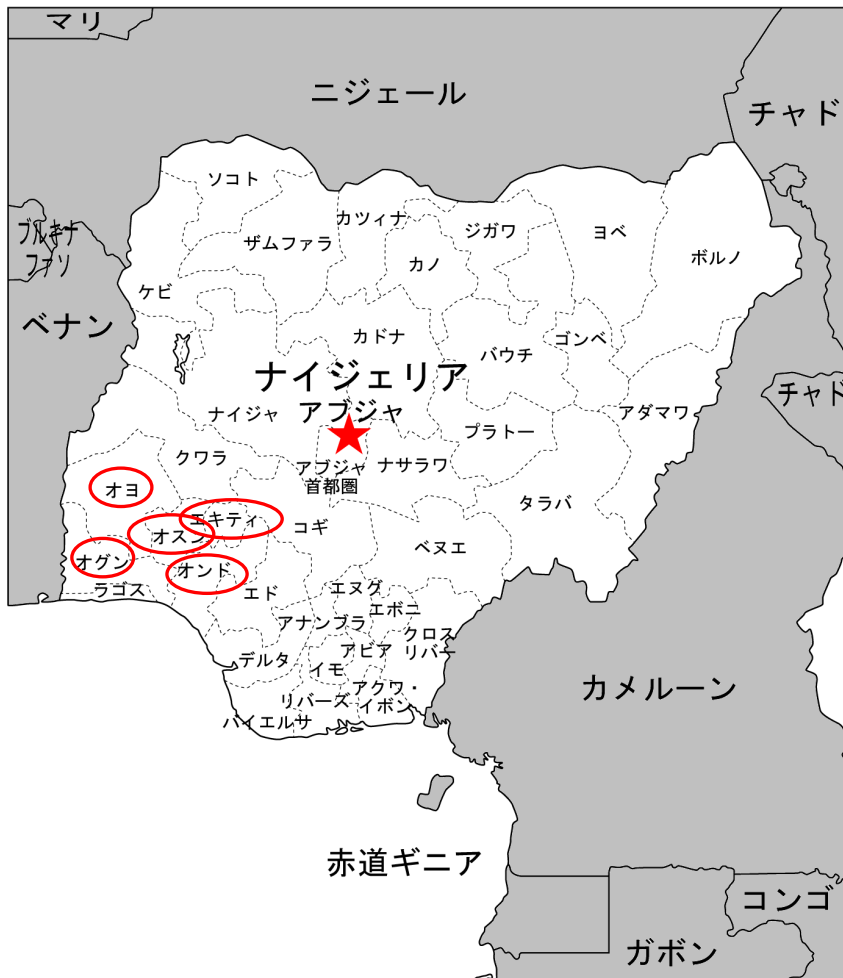
ナイジェリアの 카카오協会によると、ナイジェリアでは南西部の Ogun 州、Oyo 州、Osun 州、Ondo 州、Ekiti 州で国内生産量の 70%を担っており、2013/14 期には 33 万トンを生産した。

Osun 州のトレーダーは「南西部ではほとんど晴れ間が見られない雨季の真ただ中の 8 月初旬に、最初のメインクroppの収穫が始まる。しかし農家はこの時期には 카카오豆の乾燥が十分に行えないことを理由に、すぐには 카카오豆を販売せず、第 2 期メインクropp収穫時期に出荷しようとしている。」と述べた。彼はまた「十分に成長した 카카오ポッドが木にたくさん実っていて、これからどんどん収穫し、乾燥工程に入る。9月の収穫分よりもずっと品質が良さそうだ。」と続けた。

また、Oyo 州のトレーダーは「晴れ間が続く乾季の中、メインクroppの 2 期が先週始まった。9月は湿度が高く、あまり天候に恵まれなかったが、10月に入っては天候も回復し、 카카오の品質が改善してきた。」と述べた。

Ondo州の農家は「9月には大量の雨が降ったことで、カカオの生育に悪影響を与えた。しかし10月には天候が回復し、晴れ間と適度な雨が繰り返されカカオ豆は順調に生育するだろう。」と述べた。

【ナイジェリア】



3、ガーナ：2014/15期カカオ豆生産高、政府目標に到達の見込み(10/8)

ガーナの気象庁によると、今シーズンの天候が良好でありガーナのカカオ豆生産高が、政府目標数量に達する見込みである。Cocobodの代表のStephen Opuni氏は2014/15期には100万トン超えると予測している。ガーナでは2010/11期に年間102万5000トンの過去最高生産高を記録した。

気象庁の担当も、100万トン超えについて「達成し得る」と述べている。

ガーナ政府は、農家保証価格を63%上げて、トン当たり5520セディ(\$1.714)へと設定した。

狙いはコートジボワールへのカカオ豆密輸を防ぐためである。

またある関係者は「カカオ豆の価格も農家にとって適正であり、天候にも恵まれている。これから11月までは雨と晴れ間が定期的に訪れる。そして12月からはまた乾季が訪れる。カカオ豆は大きく育つだろう。」と述べた。また「カカオの植え替えは、すぐに効果が出るわけではない。我々は先を見据えている。しばらくはカカオの生産量が減少するかもしれないが、将来的にはもとに戻るだろう。」と続けた。

4、バリーカレボー、カカオ農家への支援に関与(10/9)

バリーカレボーは、カカオ農家の農地あたりの生産性を向上させ、生産量を伸ばす為に農家を支援することを誓った。同社が発行した「持続可能なカカオ生産についてのレポート」の中で、カカオ農家への農業技術に関する教育機会を与えるなどの計画を示した。

バリーカレボーの最高責任者は「この支援計画を早急に且つ、効果を最大に引き出すために、我々はこの Cocoa Action を自らでも実行し、また World Cocoa Foundation にもプッシュしていく。我々の Cocoa Action の目的はカカオ農家が将来にわたって継続的に運営をしていくことを実現させることだ。」と述べた。

Cocoa Action はカカオ生産国の政府や国立機関と共同して行い、農業機械や肥料などを提供したり、技術訓練の機会を与えたりと幅広い。この活動は 2013 年 7 月から始まり、10 万人もの農家に対してより良き農業を行うべく訓練を提供してきた。

またレポートで強調されていることに“Cocoa Horizons Truck”計画を含む主要な 5 つの計画がある。Cocoa Horizons Truck はコートジボワールを回って農業訓練を受けさせるというものである。

今年 2 月、バリーカレボーは the Bio lands group 社を買収した。この the Bio lands group はタンザニア、コートジ、シエラレオネの 6 万 3000 件もの農家と共に、オーガニック認証付きのカカオ豆の栽培と出荷に携わってきた。

バリーカレボーは新しい切り口で農家と関わり、チョコレート・カカオ業界を持続可能にしていけるために解決の糸口を探っていく。

5、カメルーン：2014/15 期、最初の 1 か月で 6,666 トンのカカオ豆輸出(10/8)

カメルーンの国立カカオ・コーヒー委員会 (ONCC) の発表によると、2014/15 期の収穫期が始まった 8 月の 1 か月間で 6,666 トンのカカオ豆を輸出した。昨年同時期と比較し 500 トンの上昇となった。初回の輸出量は、現在カメルーン国内で在庫として昨シーズンから残っている 5,000 トンを超えた。

カメルーンは 2013/14 期には 20 万 6550 トンのカカオ豆の買い付けを行った。2012/13 期からは 9% の下落となった。しかしカメルーン政府は 2020 年までに年間生産量を 60 万トンにする計画の為に 6000 億 CFA フラン (約 12 億ドル) の予算を割く予定である。

6、ガーナ：Cocobod がカカオ豆の安定的な栽培を目的とした基金を設立(10/10)

Cocobod の最高責任者である Mahama 氏はカカオ、コーヒー、シアナッツ農家の負担を和らげる為の「カカオ栽培安定化基金」を設立した。この基金は、仮にカカオ豆の国際価格が下落した場合も、政府が買い取り価格を保証し、国際価格と同水準もしくはそれ以上の価格で買い取ることを保証している。

彼は「ガーナではカカオ豆の収穫量が 100 万トンを超えるのは難しいとされているが、政府はその目標を達成させるためのサポートをさせる準備ができています。したがって農家はただ一生懸命に農業に励んでくれれば何も心配いらない。」と述べた。

農家は大統領に対し、ここ最近のカカオ豆の買い取り価格の値上げや、ボーナス支給について感謝の念を示している。政府は 1 週間前に、農家からの買い取り価格をカカオ豆 64k g あたり 212 ガーナセディ (\$64) から 345 ガーナセディ (\$103) へと引き上げた。またボーナスもトンあたり 2 ガーナセディから 5 セディへと増やした。

こうした値上げは農家のモチベーションを向上させ、農地を拡大させるための投資へと向かう。また Mahama 氏は「カカオ豆生産地域の 6 か所に対して 6 億セディの投資を行い、インフラ整備を行い、道路事情を改善させ、カカオ豆の集荷業者や取引所へのアクセスが可能となった。」と述べた。彼は、カカオ栽培は良いビジネスであると若者に訴え、“田舎で老人が行う農業”としての位置づけではなく“将来に渡った可能性のあるビジネス”として理解されるように努めている。また彼は女性のカカオ、コーヒー、シアナッツビジネスの起業の重要性についても強調している。

農家からの買い取り価格の上昇は長い目で見て、農家が初期投資を回収する為に重要であり、またガーナ人としての意識を高めることに貢献する。同様に、無料で肥料を配布したり、農業訓練プログラムを提供することは、ガーナにおけるカカオ産業を再生し、農家がカカオ産業へ従事する意気込みにもつながる。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp